ロングセラーには理由がある！

殺菌剤

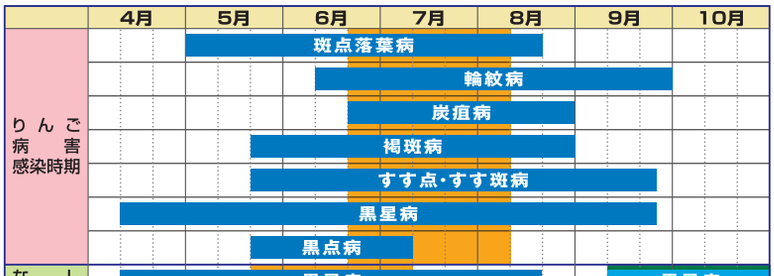
オキシラン水和剤

農林水産省登録
第21247号

●有機銅＋キャプタンで優れた保護効果 ●糸状菌＋細菌性病害など広範囲な病害に有効 ●銅は耐性菌の出現リスクが低い

■りんご・なし（赤なし）・おうとう/病害の感染時期

:防除適期　:翌年の感染源防除



りんご

本剤の使用回数	4回以内
使用時期	収穫14日前まで（落花20日後頃までの使用をさける）

なし

本剤の使用回数	9回以内
使用時期	収穫3日前まで

おうとう

本剤の使用回数	3回以内
使用時期	収穫終了後～落葉期まで

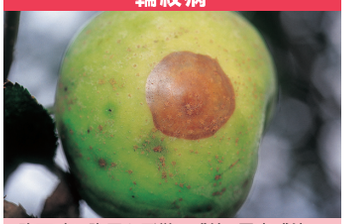
〈写真はイメージです〉

りんご

斑点落葉病

5月上～下に初発し、気温上昇とともに多発。若い葉で感染しやすい。

輪紋病



降雨時に胞子を飛散し感染。果実感染のピークは6月中～7月下。

炭疽病

雑木林が感染源の場合が多い。6～7月に雨が多いと多発。

褐斑病

5月に感染開始。葉では7月から、果実は9月中から発病。

すす点病

感染開始は5月下。夏季は停滞し9月以降増える。低温多雨で多発。

すす斑病

感染開始は5月中。夏季は停滞し9月以降増える。低温多雨で多発。

黒星病

開花期の防除がポイント。冷夏では夏季も発生し多発する。

黒点病

果実の被害が多い。幼果感染は5月下に開始。感染は7月まで続く。

なし

黒星病（幼果期）

黒星病（果実）

4～5月の降雨が多いと発生が多い。9～10月の降雨が多いと翌年の発生が多い。

輪紋病

発病は7月以降だが感染は5月に始まっている。

黒斑病

4月が高温で適度の雨で多発。袋掛け前に防除。二十世紀等の青なしで発生が多い。

おうとう

褐色せん孔病（せん孔病）

収穫後に多発し落葉すると、次年度の果実品質に影響。

その他

すいか つる枯病

降雨が続くとまん延する。多湿条件で多発しやすい。

ねぎ 黒斑病

ハウスより露地栽培で多い。梅雨と初秋の多雨により多発する。

レタス 腐敗病＊

高温時に多発するタイプと、低温期の凍霜害で多発するタイプがある。

はくさい 軟腐病＊

高温・多湿で多発。土壌中の病原菌が降雨の跳ね上げで傷口から感染。

＊細菌による病害

NICHINO
日本農薬株式会社

果樹・野菜の各種病害防除に オキシラン水和剤

キャプタン……20.0%
有機銅（8-ヒドロキシキノリン銅）…30.0%
殺菌剤分類 M4,M1
安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

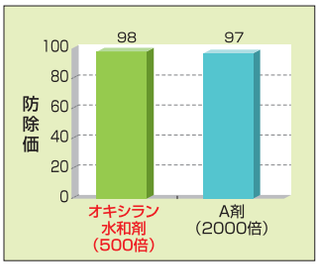
適用病害虫および使用方法（　2025年6月適用拡大）

〈2025年6月現在の登録内容〉

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キャプタンを含む農薬の総使用回数	有機銅を含む農薬の総使用回数
りんご	黒点病、斑点落葉病 黒星病、輪紋病	500～800倍	200～700ℓ/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	6回以内	7回以内（塗布は3回以内、散布は4回以内）
	褐斑病、すす点病 すす斑病、炭疽病	500～600倍						
おうとう	せん孔病	600倍		収穫終了後～落葉期まで	3回以内		5回以内	6回以内（塗布は3回以内、散布は3回以内）
ベリー類（ブルーベリーを除く）	斑点病 茎枯病（ふさすぐり）						3回以内	3回以内
ブルーベリー	斑点病						5回以内（生育期は2回以内、収穫終了後～落葉期までは3回以内）	
なし	黒星病、黒斑病、輪紋病	500～600倍		収穫3日前まで	9回以内		9回以内	12回以内（塗布は3回以内、散布は9回以内）
	炭疽病、褐色斑点病 黒斑細菌病	500倍						
もも	縮葉病			発芽前	4回以内		4回以内	8回以内（塗布は3回以内、散布は5回以内）
すいか	つる枯病		100～300ℓ/10a	収穫14日前まで	5回以内		5回以内（種子粉衣は1回以内）	5回以内
	炭疽病	500～600倍						
メロン	斑点細菌病							
	つる枯病	500倍						
きゅうり	べと病、炭疽病	400～800倍		収穫前日まで				
	斑点細菌病	400～600倍						
トマト	葉かび病、疫病	400～800倍						
	輪紋病	500倍						
レタス	斑点細菌病、腐敗病			収穫30日前まで			6回以内（種子粉衣は1回以内、は種後は5回以内）	
はくさい	軟腐病、黒斑病							
ねぎ	黒斑病、べと病、軟腐病	600倍		収穫14日前まで				
芝	葉腐病（ブラウンパッチ） 赤焼病	300～500倍	1～2ℓ/m²	発病初期			8回以内	

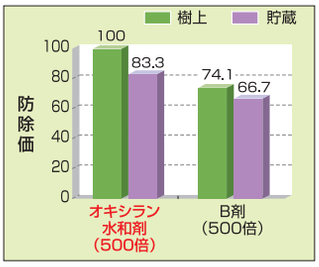
試験成績（りんご）※公的機関等での実用性評価試験のため、登録内容の使用液量・使用時期・使用回数とは異なる場合があります。

●褐斑病
（秋田県果樹試験場 1996年）



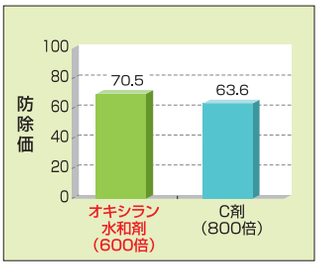
発　生：少発生
処　理：6/12,24、7/9,22、8/5
調　査：8/19 果叢、葉叢調査

●輪紋病
（(社)長野県植物防疫協会 南信研究所 2005年）



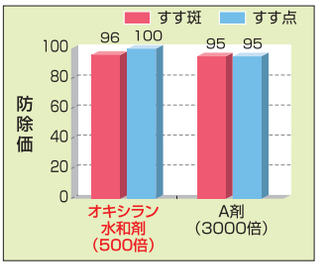
発　生：少発生
処　理：6/17,29、7/7,19、8/2
調　査：（収穫時）11/10、（貯蔵）11/21
果実調査

●炭疽病
（長野県果樹試験場 2005年）



発　生：多発生（接種）
処　理：6/6,20,21、7/5,19、8/2,17
調　査：（収穫時）8/29、（貯蔵）9/21
※樹上+貯蔵で発病果率を求めた

●すす斑病、すす点病
（(社)岩手県植物防疫協会 1996年）



発　生：多発生（すす斑病）
中発生（すす点病）
処　理：7/9,22、8/8,22、9/4
調　査：9/20 果実調査

注意事項

●所定量を水に加え、よくかきまぜてから散布してください。
●石灰硫黄合剤、水和硫黄、チウラムとの混用はさけてください。
●乳剤との混用は薬害を起こすおそれがあるので、5～6月の落葉果樹では注意してください。
●ビニールハウスや温室栽培のそ菜では、散布後の本剤が雨などにより流されにくいため、作物表面に長く残り収穫物の外観を汚すので、収穫期間中は使用をさけてください。
●うり類に対する薬害は無機銅剤に比べ少ないが、幼苗期、高温時には注意して散布し、過度の連用はさけてください。
●りんごに使用する場合、サビ果の発生を多くする場合があるので、落花直後から落花20日後頃まで使用をさけてください。また、樹勢の弱い場合には連用散布すると生理落葉を助長する事例もあるので連用はさけることが望ましいです。特にゴールデン及びゴールデンからの育成品種には注意してください。
●りんごの斑点落葉病・黒星病に対しては多発時には効果が不十分な場合があるので、なるべく発生初期に散布し多発時には所定濃度範囲の高濃度で使用してください。
●きゅうり、トマトに使用する場合、収穫間際の散布では果実に汚れを生じることがあるので、注意してください。
●はくさいの軟腐病及びねぎのべと病に使用する場合、発病後の散布では十分な効果が得られないので予防的に散布してください。
●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
●自動車などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
●適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害や作物への汚れの有無を十分確認してから使用してください。
●粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。また散布液も眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
●散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
●作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
●かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。
●夏期高温時の使用をさけてください。
●公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
●水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。
●水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
●散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

○使用前にはラベルをよく読んでください。　○ラベルの記載以外には使用しないでください。　○本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

NICHINO 日本農薬株式会社
東京都中央区京橋1丁目19番8号
TEL：0570-09-1177　URL：https://www.nichino.co.jp/

2025年8月作成版（Z）CG12508S